

水痘（みずぼうそう）の予防接種を受けられる方へ

病気について

水痘は水痘・帯状疱疹ウイルスの直接接触、飛沫あるいは空気感染によって広がる、最も感染力の強い感染症のひとつです。潜伏期は通常2週間程度（10～21日）です。特徴的な発疹が主症状でかゆみがあり、発熱を伴うこともあります。典型的な症例では、発疹は斑点状の赤い丘しんから始まり、水疱、膿疱（粘度のある液体が含まれる水疱）を経て痂皮化（かさぶたになること）して治癒するとされています。

通常1週間程度で治癒する疾患ですが、一部は重症化し、肺炎や気管支炎、肝機能の異常を伴うことがあります。また、皮膚から細菌が感染して膿痂疹や蜂窩織炎、敗血症などの細菌の二次感染を合併する場合があります。脳炎や小脳失調など中枢神経系の合併症を併発することもあります。

初感染後は生涯、体の中（脳神経節や脊髄後根神経節）に潜伏感染し、加齢や免疫抑制状態等で再活性化し、帯状疱疹を発症します。

水痘ワクチンについて

水痘・帯状疱疹ウイルスを弱毒化してつくった生ワクチンです。麻しん、風しんなどの生ワクチンに比べ、その効果は少し劣ります。このワクチンを1回受けた人のうち、約20%は後に水痘にかかることがあります（発症予防率80%）。もしかかっても軽くすむとされていますが、確実に予防するためには2回の接種を行います。

水痘患者に接触した場合、3日以内にワクチンを接種すれば発症を予防できるとされ、院内感染の防止にも使用されています。

予防接種の受け方

- 〈対象年齢〉 1歳～3歳に至るまで（3歳になる前日まで） 2回接種
〈受け方〉 [1回目] 標準的には生後12か月～生後15か月に至るまでの間に接種
[2回目] 1回目接種より3か月以上、標準的には6か月～12か月までの間隔をおいて接種

注) 既に水痘に罹患したことがある人は対象外です。

予防接種後の注意と副反応について

- ① 予防接種を受けたあとはしばらくお子さんの様子をみた後、医療機関の指示に従ってください。
 - ② 接種後24時間は、副反応の出現に注意し、観察してください。
 - ③ 発熱もなく、体調がよければ接種日当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をなるべく、こすらないようにしてください。
 - ④ 接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいません。激しい運動はさけてください。
 - ⑤ 接種後、他の注射生ワクチンの接種を受ける場合は、27日以上の間隔をあけてください。
 - ⑥ 健康小児、成人では副反応はほとんど認められませんが、時に発熱、発疹が見られ、まれに局所の発赤、腫脹（はれ）、硬結（しこり）が見られます。また、まれにアナフィラキシー（蕁麻疹、呼吸困難、口唇浮腫、喉頭浮腫等）、急性血小板減少性紫斑病（100万人接種あたり1人程度）、無菌性髄膜炎（帯状疱疹を伴うもの）が見られることがあります。
- 接種後4週間くらいはお子さんの健康状態に気をつけてください。
機嫌がわるくなったり、異常があるときは、接種を受けた医師にご相談ください。また、下記にもご連絡ください。

（予防接種健康被害救済制度について）

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種を受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合は、法に基づく健康被害給付の対象となります。

お問い合わせ先

大東市地域保健課【すこやかセンター（保健医療福祉センター）3階】 ☎072（874）9500
四條畷市立保健センター ☎072（877）1231